

平成 29 年度 第 1 回まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

○ 日 時

平成 29 年 6 月 19 日（月）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

○ 会 場

諏訪市役所 2 階 201 会議室

○ 出席者

＜まち・ひと・しごと創生有識者会議委員＞

中嶋博美委員、岩波寿亮委員、今井高志委員、酒井裕子委員、倉田紀子委員、牛山久仁彦委員、藤沢晃委員、林直樹委員、花岡智昭委員、佐久秀幸委員、宮坂通世委員、金子ゆかり委員

＜まち・ひと・しごと創生本部＞

平林副市長、木島企画部長

＜地方創生交付金事業担当課＞

大館経済部長、金子商工課長兼産業連携推進室長、飯田産業連携推進係長

細野観光課長、片桐観光係長、柿澤地域戦略・男女共同参画課長、宮坂地域戦略係長

＜事務局＞

前田企画政策課長、伊藤企画政策係長、牛山企画政策係主査、小松企画政策係主任

○ 欠席者

宮坂友子委員、茅野昭一委員、山崎三千代委員

○ 会議概要

1 開会

（前田企画政策課長）

- ・平成 29 年度の第 1 回諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催する。
- ・会議開催に先立ち、有識者会議の新委員の任期開始となるため、金子市長より委嘱状を交付させていただく。

2 委嘱状交付

※金子市長より委嘱状交付

（前田企画政策課長）

- ・新たな任期開始となるため、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたい。

※委員自己紹介

3 市長挨拶

（金子市長）

- ・本日はお忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。委員各位にご協力いただき、

平成 27 年 12 月に決定した諏訪市版総合戦略に基づき、平成 29 年度においても様々な施策を展開している。

- ・総合戦略の特徴は KPI（重要業績評価指標）を設定し、施策の達成状況を目に見える形で示すこととともに、外部有識者の皆さんから意見をいただき、総合戦略や事業の効果を検証することにある。
- ・平成 28 年度は、国から交付された「地方創生加速化交付金」、「地方創生推進交付金」を活用して、様々な事業を実施した。地方創生に対して効果があったかどうか、行政だけでなく、外部有識者の皆さんからもご意見をお伺いすることで、客観的な効果検証を行う。
- ・それぞれのお立場で忌憚のないご意見をいただき、さらなる事業のブラッシュアップにつなげていきたい。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

4 報告事項

（金子会長）

- ・報告事項に先立ち、定足数の確認について事務局よりお願ひしたい。

（事務局）

- ・有識者会議の委員数 15 名のうち、本日出席の委員は 12 名となり、半数以上の出席であることから定足数に達していることを報告する。

(1) 直近の人口動態について

（金子会長）

- ・それでは、「(1) 直近の人口動態について」、事務局より説明をお願ひしたい。

（事務局）

※資料No.1 に基づき説明

（金子会長）

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺ひしたい。
- ・諏訪市の社会増減については近隣の市町村、岡谷市や茅野市への流出が大きい。これをどのように受け止めるのか、また、今後どのように対応していくべきかという意見があればいただきたい。

（A 委員）

- ・若い世代が住宅を建てるときに転出してしまうことが要因だと思う。諏訪市は出生数が多いのに勿体ない。若い世代の流出を食い止めることができれば。

（金子会長）

- ・出産から保育園頃までの環境は諏訪市が良いということだが、住宅については、近隣市町村の新たに造成された分譲地に建てる傾向があると感じている。

（B 委員）

- ・茅野市へ転出していくことについては、土地も安いことからイメージとして想像できる。岡谷市へ転出していく層が分からない。土地は高く、大きな企業も移転してしまっている。要因についてさらなる分析が必要だと思う。

5 協議事項

(1) 地方創生交付金事業の効果検証の概要について

(金子会長)

- ・次に協議事項に移りたい。協議事項「(1) 地方創生交付金事業の効果検証の概要について」、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.2 に基づき説明

【参 考】

<事業効果>

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった

<今後の方針>

- ①追加等更に発展させる
- ②事業内容の見直し（改善）
- ③事業の継続
- ④事業の中止
- ⑤予定通り事業を終了

(2) 地方創生交付金事業の効果検証について

(金子会長)

- ・協議事項「(2) 地方創生交付金事業の効果検証について」に移りたい。
- ・事前に担当課による事業効果検証結果をお送りし、各委員により効果検証を行っていただいた。本日、お手元に各委員による効果検証の結果を取りまとめた追加資料を配布している。

○事業No.1「諏訪圏 6 市町村による SUWA ブランド創造事業」

(金子会長)

- ・商工課の事業No.1「諏訪圏 6 市町村による SUWA ブランド創造事業」について、効果検証を行いたい。まず、担当課より「事業概要」、「事業効果」及び「今後の方向性」について説明したい。

(担当課)

※資料No.3 に基づき説明

(金子会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。
(意見なし)

(金子会長)

- ・事務局より、各委員の効果検証の取りまとめ結果について説明したい。

(事務局)

※追加資料②に基づき説明

(金子会長)

- ・事業No.1「諏訪圏 6 市町村による SUWA ブランド創造事業」について、「事業効果」は「②」、「今後の方向性」は「③」となっている。効果検証に対する意見があれば伺いたい。

(C委員)

- ・「継続は力なり」の事業である。今後も力を入れて取り組んでいくべき事業であると感じている。

(D委員)

- ・大学や病院、企業など様々な主体が連携できるプロジェクトであり、人材育成に効果的であると思う。特に、若者の人材育成につながるような努力が今後必要であると感じている。

(E委員)

- ・アドバイザーやコーディネーターは、企業を引退した人が中心に担っていると思う。ものづくりにおいては、企業の現役社員であっても世界の競争に遅れてしまう傾向がある。諏訪地域には高度な技術を持つ企業が集積している。そうした企業からの協力を得られるような工夫が必要ではないか。

(金子会長)

- ・有識者会議として、効果検証結果を以下のとおりとしたいがよろしいか。

事業No.1「諏訪圏 6 市町村による SUWA ブランド創造事業」

「事業効果」：② 「今後の方針」：③

(異議なしの声)

(金子会長)

- ・ありがとうございました。

○事業No.2「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業」

○事業No.3「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業 (SUWA プレミアム販路創生)」

(金子会長)

- ・産業連携推進室の事業No.2「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業」、事業No.3「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業 (SUWA プレミアム販路創生)」について、効果検証を行いたい。まず、担当課より「事業概要」、「事業効果」及び「今後の方向性」について説明したい。

(担当課)

※資料No.3に基づき説明

(金子会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。

(意見なし)

(金子会長)

- ・事務局より、各委員の効果検証の取りまとめ結果について説明したい。

(事務局)

※追加資料②に基づき説明

(金子会長)

- ・事業No.2「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業」、事業No.3「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業 (SUWA プレミアム販路創生)」について、両事業とも「事業効果」は「①」、「今後の方向性」は「①」となっている。効果検証に対する意見があれば伺いたい。

(F委員)

- ・「新商品・新サービス開発支援」の件数と、KPI「新商品・新サービス創出件数」はイコールなのか。支援した企業全てが新商品・新サービスを創出できたということになるのか。

(担当課)

- ・ご質問いただいた KPI は、総合戦略に記載された KPI、効果検証シートに記載した事業ごとに設定した KPI のどちらか。

(F委員)

- ・効果検証シートにおける KPI についての質問である。

(担当課)

- ・産業連携事業補助金は、何らかの形で成果を出すことを補助要件としている。

(F委員)

- ・「創出」とは、研究開発、製品化、販売などどのような段階を示すのか。

(担当課)

- ・販売段階でなく、試作段階でも成果として評価している。

(F委員)

- ・判断するにあたり、事業内容が盛りだくさんであり分かりにくい部分があった。
- ・試作品の段階でも補助対象となるのであれば良いと思う。
- ・研究開発から試作、製品化、販売まで様々なステップを踏む必要があり時間もかかるが、段階ごとに支援を受けることができる形になれば良いのではないかと。一回補助金を交付したら終わりではなく、段階に応じて、販売開始まで支援できるような制度にしていきたい。

(B委員)

- ・SUWA プレミアム商品自体にあまりいいものがない。鼻毛用カッターや精密コマなど、お土産として渡すには相応しいものが少ないと感じている。
- ・いわゆるプロダクトアウト、作り手の思いだけでなく、世の中でどのようなものが売れているのサーチを行い、それを諏訪の技術を活かして作り出すことが必要ではないか。
- ・売れるものを作らなければ、行政の補助がなくなった途端に事業が終わってしまう。
- ・松山三四郎は長野県内では抜群の知名度があるので、長野県内での発信には非常に効果的である。

(金子会長)

- ・事業が売上に結び付くかどうかという視点である。ご指摘いただいた視点も事業実施にあたり加えていきたい。

(G委員)

- ・全国には様々なネットワークが存在している。例えば地方紙にも全国規模のネットワークがあるので、全国各地に向けたプレスリリースなどにより情報発信してはどうか。

(担当課)

- ・SUWA プレミアムの販路創生にあたり、ホームページやフェイスブック、諏訪地方の新聞社等を活用しているが、全国的なアピールは力不足であると実感している。今後はさらに広い範囲での情報発信を考えていきたい。
- ・全国的な業界系の新聞社への情報発信を行うなど、専門誌等への発信により発注の機会を増やしていきたい。

(金子会長)

- ・英語表記なども併せて検討してもらえれば。

(A委員)

- ・この商品が欲しいかどうか、という問題だと思う。仮に SUWA プレミアム商品という冠を付けても、マーケットで売れるかどうか。
- ・さらに発展して欲しいという想いもあるが、デザイナーが加われば何でもよいということではなく、デザイナーが参画する前提条件として、マーケティング調査が必要だと思う。
- ・SUWA プレミアムの発信は良いと思う。ただし、ブランディングにあたり、誰に何をどう伝えていくのかを考える必要があると思う。全国万遍なく誰に対しても発信では効果が薄まってしまう。性別や年齢、住んでいる場所など、ターゲットを絞った形の発信も必要ではないか。

(D委員)

- ・フェイスブックでの発信を行うのであれば、フェイスブックを使っている年齢層が見えてくると思う。受ける側の年齢層も考えた発信が必要である。
- ・先日、転勤される先生への記念品として、諏訪のものをプレゼントしたいということでガラスの里の SUWA プレミアムショップに行き、精密コマと消防用ホースをリユースしたカバンを購入した。理科の先生だったこともあり、とても喜んでいただいた。
- ・SUWA プレミアムショップには観光客も多く訪れていたのもう少し広いスペースでゆっくり見ることができれば良いのでは。

(金子会長)

- ・SUWA プレミアム活動については、部品製造が主体である企業が、最終商品として売り出すまでの力を付けるトレーニングとしての位置付けもある。将来はその域にまで達することが目標である。
- ・有識者会議として、効果検証結果を以下のとおりとしたいがよろしいか。

事業No.2 「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業」

「事業効果」：① 「今後の方針」：①

事業No.3 「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業 (SUWA プレミアム販路創生)」

「事業効果」：① 「今後の方針」：①

(異議なしの声)

(金子会長)

- ・ありがとうございました。

○事業No.4「御柱祭の知名度活用による諏訪エリアの長期滞在型観光創生事業」

(金子会長)

- ・観光課の事業No.4「御柱祭の知名度活用による諏訪エリアの長期滞在型観光創生事業」について、効果検証を行いたい。まず、担当課より「事業概要」、「事業効果」及び「今後の方向性」について説明したい。

(担当課)

※資料No.3に基づき説明

(金子会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。
(意見なし)

(金子会長)

- ・事務局より、各委員の効果検証の取りまとめ結果について説明したい。

(事務局)

※追加資料②に基づき説明

(金子会長)

- ・事業No.4「御柱祭の知名度活用による諏訪エリアの長期滞在型観光創生事業」について、「事業効果」は「③」、「今後の方向性」は「①」となっている。効果検証に対する意見があれば伺いたい。

(H委員)

- ・ホームページにおいて、国内向けと海外向けとで異なる画像は使っているのか。

(担当課)

- ・国内、海外ともに同じ画像、映像を使用している。

(H委員)

- ・「諏訪の国」とは、諏訪地域全体を示す言葉なのか。

(担当課)

- ・諏訪地域、広域エリアとして捉えている。

(G委員)

- ・素晴らしい取組に感謝している。
- ・サービス業全体として人材不足の状況。人が全く足りていない。待遇面の問題もあろうかと思う。人材不足の解消を観光業者も含めて考えていかなければならない。
- ・民泊の問題について、どう考えていくか。従来のホテルや旅館とは宿泊する層が異なるが、これから考えていくべきことである。
- ・今後は、滞在型観光も含めた対応が必要となるので、並行して進めてほしい。

(担当課)

- ・諏訪版 DMO の構築に向けて体制をどのように整えていくのが課題。観光産業を通じて地域にお金を落とす仕組みの検討を進めていきたい。

(金子会長)

- ・この事業は諏訪地域6市町村全体で取り組む事業である。
- ・有識者会議として、効果検証結果を以下のとおりとしたいがよろしいか。

事業No.4「御柱祭の知名度活用による諏訪エリアの長期滞在型観光創生事業」

「事業効果」：③ 「今後の方針」：①

(異議なしの声)

(金子会長)

- ・ありがとうございました。

○事業No.5「DMO 設立に向けたビーナスラインを基軸とした広域観光事業」

(金子会長)

- ・観光課の事業No.5「DMO 設立に向けたビーナスラインを基軸とした広域観光事業」について、効果検証を行いたい。まず、担当課より「事業概要」、「事業効果」及び「今後の方向性」について説明したい。

(担当課)

※資料No.3に基づき説明

(金子会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。

(意見なし)

(金子会長)

- ・事務局より、各委員の効果検証の取りまとめ結果について説明したい。

(事務局)

※追加資料②に基づき説明

(金子会長)

- ・事業No.5「DMO 設立に向けたビーナスラインを基軸とした広域観光事業」について、「事業効果」は「③」、「今後の方向性」は「③」となっている。効果検証に対する意見があれば伺いたい。

(A委員)

- ・この事業は DMO 構築が最終の目的ではないと思う。沿線観光消費額など、全ての KPI の結果が出ていないため、評価ができない部分がある。

(I委員)

- ・同じ行政の立場として、KPI による評価の難しさは理解できる。KPI の数字が出ない中で事業評価は難しいと感じている。
- ・ビーナスラインを活用していくことは必要であると思うので、事業継続はしてほしい。

(G委員)

- ・ビーナスラインの活用は、今後の霧ヶ峰の再生にあたり大事なことであると思う。
- ・諏訪市に関しては、諏訪湖、温泉、霧ヶ峰の3つの大きなテーマがある。例えば松本方面や上田方面などから、白樺湖も含めた広域的な観光ルート構築が必要である。DMO といった体制構築や、ビーナスライン沿線の観光振興はこれからも進めていただきたい。

(金子会長)

- ・同じ事業を諏訪地域 6 市町村で実施している。事業内容については 6 市町村それぞれの担

当者と調整しながら進めている。自治体が異なるため、交付金の配分は自治体ごと、事業の検証も自治体ごとになってしまうが、取組そのものは6市町村連携で実施しているところである。

(G委員)

・諏訪市の有識者会議であるので、諏訪市に関する意見を中心として述べさせていただいた。

(金子会長)

・有識者会議として、効果検証結果を以下のとおりとしたいがよろしいか。

事業No.5「DMO 設立に向けたビーナスラインを基軸とした広域観光事業」

「事業効果」：③ 「今後の方針」：③

(異議なしの声)

(金子会長)

・ありがとうございました。

○事業No.6「移住交流（地域しごとセンター）推進事業」

(金子会長)

・地域戦略・男女共同参画課の事業No.6「移住交流（地域しごとセンター）推進事業」について、効果検証を行いたい。まず、担当課より「事業概要」、「事業効果」及び「今後の方向性」について説明したい。

(担当課)

※資料No.3に基づき説明

(金子会長)

・質問、意見があれば伺いたい。

(意見なし)

(金子会長)

・事務局より、各委員の効果検証の取りまとめ結果について説明したい。

(事務局)

※追加資料②に基づき説明

(金子会長)

・事業No.6「移住交流（地域しごとセンター）推進事業」について、「事業効果」は「①」、「今後の方向性」は「③」となっている。効果検証に対する意見があれば伺いたい。

(J委員)

・仕事柄、県外の大学訪問を行う機会が多く、訪問する中で学生を地域にとどませようとする大学が多数あった。この地域としても、長野県外から来た学生にこの地域で就職してもらうなど、学生を囲い込むことができればと考えている。

・諏訪地域に就職することからはじまり、結婚、出産を経て、親を呼び込むといった循環が生まれることによる人口増加につながれば。学生にとって住みやすいまちであることも重要である。

(F委員)

- ・首都圏から来ている学生で、長野県が気に入ったので県内で就職したいという人は多い。さらに、両親にも長野県に来てほしいと声をかけている学生もいる。その一方で、長野県で生まれ育った学生は東京に行ってみたくらいという想いを抱いている人もいる。
- ・大都市と比較して、長野県は自然が豊かであるということに魅力を感じている人は多い。長野県の特長を学生に向けてアピールするとともに、働く場があれば学生たちに住んでもらうことはできると感じている。大学の中でも長野県、諏訪地域をアピールしていきたい。

(K委員)

- ・学生側としては、仕事がなければ住むことはできない。出身地に帰りたくてもなかなか帰れないという実情がある。
- ・移住関連の事業は重要である。さらに、様々な施策に横串を差すことで、観光や産業、雇用や移住など各種事業を連携して進めていくことが必要である。他の事業との連携により、さらに発展が望めるのではないか。
- ・諏訪圏移住相談センターにおいては、コーディネーターが横串を差す役割を担い、様々な事業と連携して行ってほしい。

(金子会長)

- ・有識者会議として、効果検証結果を以下のとおりとしたいがよろしいか。

事業No.6「移住交流（地域しごとセンター）推進事業」

「事業効果」：① 「今後の方針」：③

(異議なしの声)

(金子会長)

- ・ありがとうございました。

(金子会長)

- ・全体を通じて意見等があれば伺いたい。

(C委員)

- ・総合戦略策定段階から広域にこだわってほしいという意見を述べさせてもらっている。今回の6事業について、単独事業と広域連携事業の区分けを改めて確認したい。

(事務局)

- ・事業No.2「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業」と事業No.3「SUWA クリエイティブシティ化戦略事業（SUWA プレミアム販路創生）」は諏訪市単独の事業として実施している。
- ・その他の4事業については広域連携事業として、諏訪地域の市町村等と連携して実施している。

(C委員)

- ・各市町村で交付金事業の効果検証を行っているのか。

(金子会長)

- ・交付金の申請は代表市町村が行い、評価については市町村ごとに行っているところである。

(G委員)

- ・他の自治体でも委員の委嘱を受けているが、広域的な視点で述べてもなかなか意見が通らない。諏訪市の会議では、まずは諏訪市に関する意見を述べ、徐々に広域へと広げていきたいと考えている。

(金子会長)

- ・自治体が異なることから、6市町村ごとに応分の負担、予算を計上している。ただし、事業については連携して実施している。分かりにくい部分もあるが、全体が手を携えて事業実施することで、それぞれの自治体にとってメリットが生まれる状況が好ましいと考えている。

6 その他

(木島企画部長)

- ・貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。総合戦略がスタートして3年となる。何としても成果を上げていきたいと考えている。
- ・その他連絡事項について、事務局より報告したい。

(事務局)

- ・平成29年末までに「諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた数値目標、KPIなどの検証を行い、必要に応じて改訂を行う予定である。有識者会議委員の皆さんにはご協力をお願いしたい。

7 閉会

(藤沢副会長)

- ・長時間にわたりお疲れ様でした。各委員においては、事前に効果検証にあたりかなりの時間をかけていただいたと思う。
- ・「戻ってきたいまち 諏訪」を目指す、諏訪市に人を呼び込むには、製造業ではなく観光業がカギになると思っている。製造業における設計開発など、クレバーな部分は残るが、ロットをつくるといった生産部門は海外からは戻ってこない。観光業やサービス業は、労働力を海外移転することはできない。